

August 3, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、7日ぶり反発 持ち高調整の円売り・ドル買い先行しストップ誘発**

31日のニューヨーク外国為替市場でドル円は7営業日ぶりに反発。終値は105.83円と前営業日NY終値(104.73円)と比べて1円10銭程度のドル高水準だった。東京市場では一時104.19円と3月12日以来の安値を付けたものの、欧米市場に入ると底堅く推移した。月末のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングを控えた持ち高調整目的の円売り・ドル買いが先行し、105円台にしっかりと乗せると短期勢のストップロスを誘発。前日の高値105.29円や28日の高値105.69円を上抜けて一時106.05円まで上値を伸ばした。市場では「このところ急速にドル安が進んだ反動でドルが大きく買い戻された」との声が聞かれた。主要通貨に対するドルの値動きを示すドル指数の7月の下落率は前月末比4.2%となり、2010年9月以来9年10カ月ぶりの月間下落率となった。

なお、財務省と日銀、金融庁は日本時間夕刻に国際金融資本市場に関する情報交換会合を開催した。岡村健司財務官は会合後、記者団に対して「市場の安定は重要であり、引き続き注視していく」「今朝の麻生財務大臣の発言は円高を容認しているわけではない」などと語った。

ユーロドルは3日ぶりに反落。終値は1.1778ドルと前営業日NY終値(1.1847ドル)と比べて0.0069ドル程度のユーロ安水準だった。アジア市場では一時1.1909ドルと18年5月以来約2年2カ月ぶりの高値を付けたものの、NY市場では一転下落した。週末・月末を控えたポジション調整目的のユーロ売り・ドル買いが優勢となり、一時1.1762ドルと日通し安値を付けた。ドル指数は東京時間に一時92.55と18年5月以来およそ2年2カ月ぶりの低水準を付けたものの、NY時間には93.54まで持ち直している。

なお、格付け会社フィッチ・レーティングスは米国の格付け「AAA」の見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げたと発表したものの、取引終了間際に発表されたこともあって相場の反応は限られた。

ユーロ円は3日続伸。終値は124.75円と前営業日NY終値(124.07円)と比べて68銭程度のユーロ高水準。ドル円の上昇をきっかけに全般円安が進んだ流れに沿った。市場では「月末を迎えたロンドン・フィキシングに絡んだ円売りのフローが観測された」との声も聞かれ、一時125.21円と19年5月1日以来約1年3カ月ぶりの高値を付けた。ただ、取引終盤には124.62円付近まで伸び悩んだ。

クロス円は堅調だった。ドル円の上昇につれた円売り・外貨買いが出たほか、月末のロンドン・フィキシングに絡んだ円売りが出た。ポンド円は一時139.20円、スイスフラン円は116.30円、豪ドル円は75.92円、NZドル円は70.50円、カナダドル円は79.10円、メキシコペソ円は4.78円まで値を上げた。

**【本日の東京為替見通し】ドル売りトレンド終了は早計か、格付け見直し引き下げの影響も見定め**

本日の東京時間のドル円は、105円台で神経質な展開となるか。先週末のドルの買い戻しは月末の特殊要因が大きかったと思われ、週末の値動きでドル買いのトレンドが終了したと考えるのはまだ早計だろう。ここ数カ月の月末はロンドン・フィキシングを中心に、ドル買い・ポンド買い傾向が強く、先週のドルの下げ基調が急ピッチだったことを考えるとドルの買い戻しの調整ともいえる。今週は先月続いたドル売り基調(先月はポンドとユーロに対して約5%、豪ドルやスイスフランに対しては3%以上、円に対して2%弱ドルは売られた)が継続するのか、もしくは先週末の買い戻しでいったんドル売りトレンドが終了するのかを見定める大事な週になりそうだ。

また、先週格付け会社フィッチによる米国の格付け見直し引き下げの発表された時間がNY引け間際だったことで、この発表に対しての評価が定まらず為替市場の値動きは限られた。今後ファンダメント勢を中心に見直し引き下げにどのような判断を下すかが注目される。

今週も米国の政治動向にも引き続き注視が必要になる。失業者の支援給付金をめぐり与野党内が合意できず、給付支援策が先週末失効した。シューマー民主党上院院内総務は週末に「まだ解決しなくてはいけない問題が山積み」と話しているように、解決には時間がかかるかもしれない。その場合は失業給付の失効が今後の個人消費等にも影響を及ぼすだろう。また、マコーネル共和党上院院内総務が「11月の上院選挙で選挙に勝つために、必要とあればトランプ離れになることも許可している」と報道されているように、共和党員のトランプ離れが急速に進む可能性もあり、党内の内紛も注目を集めることになりそうだ。そして米中関係の行方にも常に目を配っておきたい。

新型コロナウイルスに関しては、ここ最近では日本での感染拡大により日経平均に影響を与えている。「Go To キャンペーン」を強引に進めたことで、今後の感染拡大が懸念され、経済自粛が今後の円相場にも影

響を及ぼしそうだ。また、週末に豪州ビクトリア州のアンドリュース首相は夜間外出禁止令（20時から5時まで）を発令し、ロックダウンの水準もメルボルンはステージ4、他のビクトリア州はステージ3まで引き上げた。ここ最近ではウイルス感染のニュースを市場は無視しているが、豪州第2の都市のロックダウン引き上げは、いずれボディブローのように豪州経済に響いてくるとは確実なので留意しておきたい。

なお、本日東京時間では、本邦からは1-3月期実質国内総生産（GDP）改定値が発表されるが、ここ最近本邦の経済指標で市場が動意づくことはほぼないので、今回も反応は薄いだらう。

中国からは7月のCaixin製造業購買担当者景気指数（PMI）が発表される。以前は中国の経済指標で豪ドルが動いたが、ここ最近では豪中関係が悪化し、豪州が中国依存から脱却する可能性も高いことで、この指標でも為替市場の値動きは限られそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

〇08:50 ☆ 1-3月期実質国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比▲0.7%/前期比年率▲2.8%）

\*内閣府：四半期別法人企業統計調査を基礎統計とする需要項目である「民間企業設備」及び「民間在庫変動」について「確報」を反映した数値を発表。

### <海外>

〇10:45 ◎ 7月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：51.1）

〇15:30 ◎ 7月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.4%）

〇16:30 ◇ 7月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：50.0）

〇16:50 ◎ 7月仏製造業PMI改定値（予想：52.0）

〇16:55 ◎ 7月独製造業PMI改定値（予想：50.0）

〇17:00 ◎ 7月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：51.1）

〇17:30 ◎ 7月英製造業PMI改定値（予想：53.6）

〇22:45 ◎ 7月米製造業PMI改定値（予想：51.3）

〇23:00 ☆ 7月米ISM製造業景気指数（予想：53.6）

〇23:00 ◇ 6月米建設支出（予想：前月比1.0%）

〇4日 01:30 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、討議に参加

〇4日 02:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演

〇4日 03:00 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演

〇4日 03:00 ◎ 7月ブラジル貿易収支

〇トルコ（犠牲祭）、カナダ（市民の日）、休場

4日

### <国内>

〇08:30 ◎ 7月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合）

〇08:50 ◇ 7月マネタリーベース

### <海外>

〇10:30 ◇ 6月豪貿易収支

〇10:30 ◎ 6月豪小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

31 日 05:37 トランプ米大統領

「2020 年の選挙で勝つ」

「選挙の結果は数日や数カ月、または数年後ではなく、選挙の夜に知っておく必要がある」

「モラトリアムを避けるため、民主党に追加対策法案の承認を要請」

「20 年の大統領選の延期は望まないが、郵送投票は問題が生じるだろう」

31 日 07:03 メドウズ米大統領補佐官

「追加対策法案の合意時期、来週についても楽観視せず」

31 日 09:06 ムニューシン米財務長官

「我々は交渉のテーブルに戻る」

「最高のケースだと今後数日以内に合意する可能性も」

「失業給付での合意成立には時間を要するだろう」

31 日 09:30 財務省幹部

「引き続き緊張感を持って為替市場の動向を注視」

「3 者会合という仕掛けが頭にあるのは事実だが、開催の有無について具体的にはコメントしない」

31 日 11:32 麻生財務相

「引き続き緊張感を持って為替相場動向を注視する」

「円高円安に関係なく、貿易収支に差はない」

「安定が極めて大事」

「為替相場についてコメントしない」

31 日 16:36 岡村財務官

「足元のマーケットの状況を受けて今回三者会合を開催した」

「新型コロナウイルス拡大のなか、情報交換を兼ねた」

「市場の安定は重要であり、引き続き注視していく」

「午後の市場動向についてはコメントを控える」

「今朝の麻生財務大臣の発言は円高を容認しているわけではない」

31 日 17:42 内閣府

「高成長でも財政黒字化は 29 年度に遅延」

「公債残高は GDP 比 2 倍と未曾有の高水準」

31 日 20:28 ジョンソン英首相

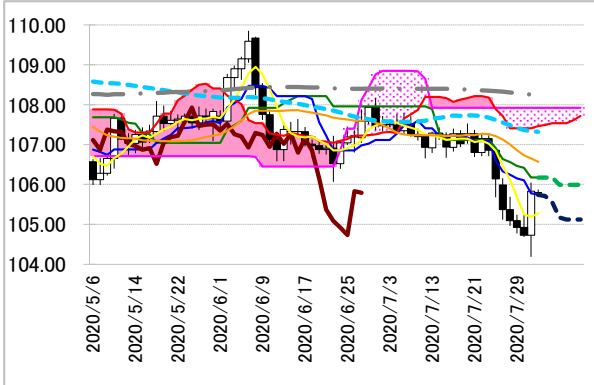
「英国全体のロックダウンを避けるためにルールに従わなければならない」

「フェイスマスクのルールは 8 月 8 日からさらなる場所でも実施する」

「より多くの(経済)再開を望んでいたが、今日延期することを決定した」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

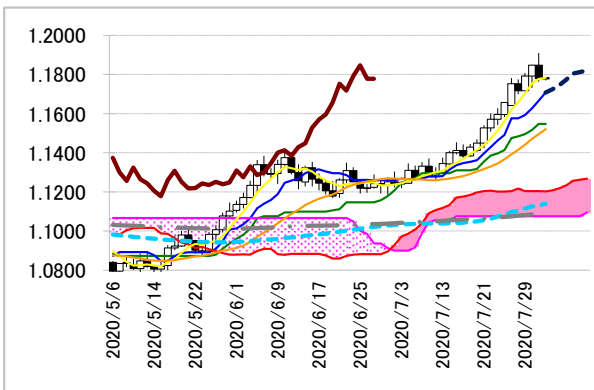


### <ドル円＝転換線などの抵抗を見定める局面>

下影太陽線引け。ドル売りが3月12日以来の安値104.19円まで加速したが、調整による大幅な巻き戻しが入った。一時106円台を回復している。

下ひげの長さは安値圏の底堅さを示している。しかし、一目均衡表・転換線105.74円を越えた水準はやや重そう。低下が続く見込みの同線をこなすことができるか見定める局面にある。やや上の一目・基準線106.18円も抵抗となり、これらの線を上回る水準の抵抗をこなすのは容易ではなさそう。

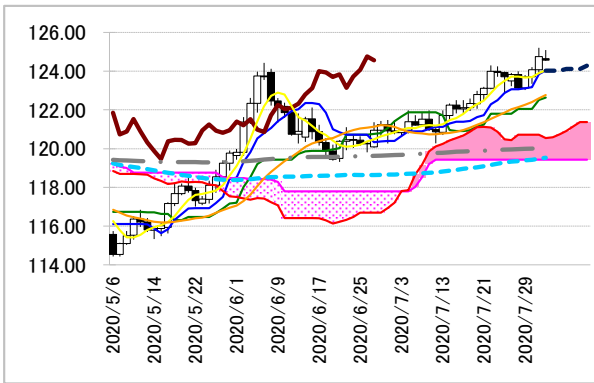
レジスタンス1	106.57(21日移動平均線)
前日終値	105.83
サポート1	105.27(5日移動平均線)
サポート2	104.90(7/31レンジ38.2%水準)



### <ユーロドル＝5日線付近の攻防>

上影陰線引け。2018年5月以来の1.19ドル乗せとなったものの、長い上ひげをともなう陰線で引けており、高値水準での頭打ち示唆とも受け取れる。目先のすう勢を示す5日移動平均線は1.1780ドル付近で上昇中。同線付近の攻防となる。割り込めば、次は一目均衡表・転換線1.1708ドルを試すことになる。

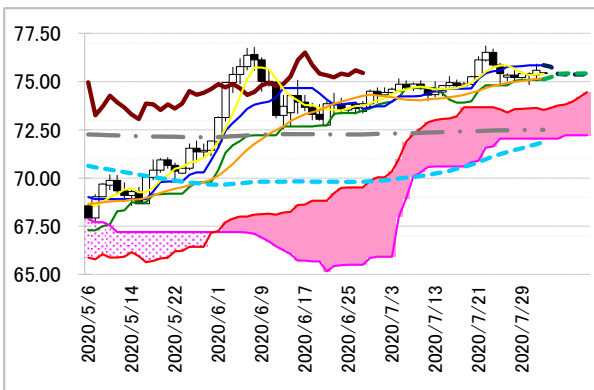
レジスタンス1	1.1836(7/31レンジ半値水準)
前日終値	1.1778
サポート1	1.1708(日足一目均衡表・転換線)



### <ユーロ円＝転換線付近の底堅さ維持し買い優位の推移へ>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線付近の底堅さを維持し、昨年4月24日以来、1年3カ月ぶりの高値125円台回復を果たした。124円台へ押し戻され、やや長めの上ひげを形成して週の取引を終えた。久しぶりの高値圏における相応の売り圧力を感じさせる。しかし、上昇傾向が続く転換線付近の底堅さは維持できそう。買い優位の展開が続くか。

レジスタンス1	125.21(7/31高値＝年初来高値)
前日終値	124.75
サポート1	124.03(日足一目均衡表・転換線)



### <豪ドル円＝転換線-基準線に挟まれ推移>

下影陽線引け。75.10円前後で上昇傾向の一目均衡表・基準線や21日移動平均線が底堅く、75円台を維持して週を引けた。しかし、一目・転換線が現水準75.85円で頭打ちとなり、低下する公算が大きい。同線付近からの上値は重い。転換線と基準線に挟まれたレンジを中心に推移しそう。両線の交差が見込まれる75.40円付近に収められたところから、次に動き出す方向を探る展開を想定する。

レジスタンス1	76.09(7/22-30下落幅の61.8%戻し)
前日終値	75.59
サポート1	75.11(日足一目均衡表・基準線)

